

【原 著】

幼稚園 4 歳児学級における草花を使った遊びの展開に見る
幼児の多様な学び

横田 咲樹 西村（中川） 華那 高橋 敏之

Diverse Learning of Children that Can Be Observed during Developing Play with
Flowers in the Class of Kindergarten for Four-year-old Children

YOKOTA Saki, NISHIMURA (NAKAGAWA) Kana, TAKAHASHI Toshiyuki

2023

岡山大学教師教育開発センター紀要 第13号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.13, March 2023

幼稚園4歳児学級における草花を使った遊びの展開に見る

幼児の多様な学び

横田 咲樹※1 西村 (中川) 華那※2 高橋 敏之※3

本論の目的は、幼児教育における遊びの展開を捕捉することである。幼児期の学びは、多様且つ総合的で、全体像の捕捉は困難であり、これまで経験的に理解されてきた。そこで、幼稚園4歳児学級における草花を使った遊びを考察した。遊びの展開に伴って学びは、深化・発展し、保育内容5領域に関係した。偶発的に見える幼児期の学びの背景には、教師の効果的な働きかけがある。

キーワード：幼児の多様な学び、遊びの展開、幼稚園4歳児学級、草花遊び

※1 社会福祉法人橘会 御南まんまるこども園

※2 元 岡山大学教育学部附属幼稚園

※3 岡山大学学術研究院教育学域 幼児教育講座

I 幼児教育における遊びと学びの展開の描出

本論は、幼児教育における遊びと学びの展開を描出するものである。我が国の幼児教育では、遊びが発達に必要な総合体験を誘発し、発達過程に適合した学習が行われるという認識が一般的であり、基本理念となっている。しかし、幼児の自発的・偶発的な行為を起点として活動が展開し、総合的な学びを引き出す幼児教育は、その仕組み (mechanism) の把握や理解が困難であり、専門的な知識・技能や経験が必要である。つまり幼児教育の形態は、幼保小連携教育の推進や、学校種間における相互理解の促進が困難な側面がある。また、保育実践例を基に、遊びや学びの展開を描出しようとした学術論文は少なく、研究成果の累積が望まれる。

そこで本論では、幼稚園4歳児学級における草花遊びの事例を取り上げ、様々な要素が複雑に絡み合った遊びの展開を分析する。具体的には、遊びの展開を6項目の視点から整理して表に示すと共に、遊びの展開に伴って生じた学びを、保育内容5領域に関連付けながら提示する。

本論の執筆に当たり著者は、研究倫理に十分配慮した。また、考察対象の岡山大学教育学部附属幼稚園は、幼児の顔写真や作品を学術論文等に掲載することを、保護者から書面で許諾を得ている。さらに、本論で使用した画像については、写っている幼児全員の保護者に掲載許可を得た。

II 草花を使った保育実践の概要

1 考察対象の幼児と保育場面の時期

本論の考察対象は、岡山大学教育学部附属幼稚園3年保育4歳児学級における保育実践である。取り上げる活動は、自由遊びの時間に設定された遊びの1つで、指導案では「草花を使って遊ぶ」と表記された。同じ時間に設定された遊びには、「砂を使って遊ぶ」「かけっこをする」「身近な自然に関わって遊ぶ」「泥団子をつくる」「積み木で家や乗り物をつくって遊ぶ」があった。「草花を使って遊ぶ」の実践期間は、2018年4月下旬～6月上旬である。

対象児は、3歳児学級の時に、砂場の砂やドングリ等の実を使って、料理を作って遊んだり、ままごと遊びやレストランごっこをして遊んだりしていた。その経験から、4歳児学級に進級直後の春に、草花を集めて料理に見立てたり、ままごと遊びをしたりし始めた。また、対象児が5歳児学級に進級した時にも、4歳児学級での経験を踏まえた草花遊びが展開された。つまり、本論で取り上げる保育実践は、対象児が初めて草花を使って遊んだ時のものであり、本論で確認するのは、草花遊びの初期における幼児の姿である。

2 草花を使った遊びの展開を捉えるための視点

遊びと、それに伴って生じた学びの全体像を捕捉するため、「草花を使って遊ぶ」を6項目の視点から捉え、論文末尾に表1として掲載した。まず、「遊びの展開」を4段階化し、「草花を集める」(展開【1】)「草花を使って料理を作る／食べ物屋さんごっこをする」(展開【2】)「料理に飲み物を添える」(展開【3】)「草花を使って色水を作る／ジュース屋さんごっこをする」(展開【4】)と示した。次に、各展開の具体的な様相を「主な幼児の姿」で示した。草花の扱いは、各展開の遊びの様相を象徴的に表しているため、「草花の扱い」として幼児の姿から抽出した。遊びが展開する背景には、幼児の願望・意欲・発想・気付き等が存在し、それを「遊びの展開の契機となる幼児の内面」として示した。この項目は、「草花の扱い」の変化と密接に関係している。「草花の扱い」の変化によって幼児が作る色水の状態が変わり、活動に対する新たな意欲や遊びの展開の契機となる発想等が生じたと考えられる。また、「主な幼児の姿」から抽出される「学びに繋がる行動」を24件挙げた。24件の行動の内、前の展開から継続して確認できる行動もあれば、消滅する行動や新たに生じる行動もある。継続している行動には、前の展開と同じ番号を振った。1つの行動に対する幼児の学びは複数あり、生じた学びは多様である。多様な学びを引き出した要素の1つとして、「環境構成」がある。この項目では、「幼児の主な姿」を誘発した物的環境と、他の遊びとの位置関係を示した。環境に加えられた物品を丸印(○)、環境から除外された物品や、物品に関する備考を米印(※)で表示した。

表1を手引きとし、「草花を使って遊ぶ」の様相を時系列に沿って確認しておこう。この遊びは、進級直後の幼児が、3歳児学級の時に経験した遊びや、新しい環境に対する好奇心を基に、自発的に行った園庭の草花を集める遊びを起点としている。草花を集めた幼児は、皿に盛り付けて料理に見立てるようになった。料理は、教師や友達に提供され、幼児は、店員や客になりきってごっこ

遊びを楽しんだ。自分が作った料理を教師や友達に食べてもらうことは、満足感に繋がり、満足感は、草花で料理を作る意欲になった。料理を作り、教師や友達に食べてもらうことを繰り返す中で、料理に飲み物が添えられるようになり、飲み物には、集めた草花が浮かべられた。この飲み物が、6月まで続く色水遊びの発端である。

草花を浮かべた水を放置していると、水に草花の色が移る。幼児は、偶然できた色水を見て、草花を使って色水を作りたいと思うようになった。そこで試された方法は、水の中で草花を混ぜる、水に浸けた草花を手で絞る、草花集めの時に使用していたビニール袋の中で草花と水を揉む、といったものであった。このように、なんとか色水を作りたい、草花から色を出したいと考えながら、色水作りを繰り返す中で、お玉の底で草花を押してみた幼児がいた。この行為は、道具を使った方が、手を使うよりも濃い色が付くという発見に繋がった。幼児は、次第に、「押す」よりも「押し潰す」、「押し潰す」よりも「すり潰す」方が、色が付きやすいことを経験的に学んでいった。そして、色の抽出が上達することで、使う草花とできる色水の色が対応していることに気づき、葉と茎を取り除いて花弁だけで色水を作る姿や、使う花弁の色にこだわって、赤や紫や黄の色水を作る姿が見られるようになった。

色水の状態が変化するに伴い、店ごっこの様相も変化した。草花を集めて楽しんでいた段階では、店は食べ物屋さんであった。上手く色が出せるようになると、食べ物屋さんは、ジュース屋さんに変化した。色相が判別できる色水を作る頃には、色水の色を味に見立て、メニュー表が作られるようになった。また、店ごっこが展開し、継続して楽しむ中で、客役の教師や幼児を大勢呼びたい心情や、より店らしくしたいという願望が生じ、窓枠や看板が作られた。

以上が、「草花を使って遊ぶ」の展開の全体的様相である。表1とこれまでの考察では、遊びの展開を便宜上段階的に論述したが、遊び方の個人差は大きく、実際には、様々な段階の幼児が混在した。遊びの段階が様々であった理由としては、「草花を使って遊ぶ」が、複数ある遊びから自由に選んで行うものであったため、遊びに関わる時間の長さが幼児によって異なっていたことが挙げられる。遊びに関わる時間が違くと、学びや経験の蓄積が異なり、遊ぶ姿も異なる。また個人内でも、違う段階の遊びを同時に行うことや、前の段階に戻ることがあり、示した順序を踏まないで遊ぶ姿があった。

Ⅲ 草花を使った遊びに見る学びの多様性と保育内容5領域との関連性

表1を見ると、「学びに繋がる行動」が徐々に増加している。このことから、遊びの展開に伴って、学びが深化・発展していることが確認できる。学びの深化・発展の様相について、保育内容5領域に関連付けながら整理してみよう。

1 幼児の学びと領域「健康」との関連性

資料1に示すように、「草花を使って遊ぶ」の中の学びは、領域「健康」の「内容」10項目¹⁾の内、4項目が該当する。幼児は、信頼する教師や親しい友達と

一緒に、安心して遊びに取り組んだ [内容(1)(4)]。それは、この遊びが幼児の主体的な探索活動を起点としていることや、水に色を付ける方法を繰り返し試したことから読み取ることができる。また幼児は、色を付ける方法を繰り返し試した過程で、体や力の使い方を学んだ [内容(2)]。さらに、食器やすり鉢やエプロン等、環境にある物は片付ける場所が種類別に明確に示され、幼児が使った道具を自分で片付ける姿も見られた。作り終わった色水を捨てるバケツや、使った容器を濯ぐ盥（たらい）も遊び場の中あり、自然と自分達の遊び場を整えながら遊べるようになっていた [内容(8)]。

資料 1. 領域「健康」の「内容」

(1) <u>先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。</u>
(2) <u>いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</u>
(3) 進んで戸外で遊ぶ。
(4) <u>様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</u>
(5) 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
(6) 健康な生活のリズムを身に付ける。
(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
(8) <u>幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</u>
(9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

(注：下線は、著者らによる。)

体や力の使い方に関する学びの深化の様相を、表 1 に示した「草花の扱い」の変化に合わせて考察してみよう。「混ぜる・揉む・握る」段階では、手の平を使い、単純な動きをしていた。「押す」段階では、道具を握り、草花に対して垂直に圧力を掛けるようになった。「押し潰す」段階では、道具の握り方が上達し、角度を付けて草花に圧力を掛けるようになった。「すり潰す」段階では、すりこぎとすり鉢の使い方を理解して、花卉の形が崩れる程に潰すことができるようになった。遊びが展開する毎に、効率的に大きな力を加えることができ、動きが複雑になっていったことが確認できる。

2 幼児の学びと領域「人間関係」との関連性

資料 2 に示すように、「草花を使って遊ぶ」の中の学びは、領域「人間関係」の「内容」13 項目²⁾の内、9 項目が該当する。幼児は、教師や友達と関わりながら、色水作りや店ごっこを楽しんだ [内容(1)]。幼児は、ジュースに見立てる色水やごっこ遊びに使う店をより実物に近づけたいという願望を持ち、その実現に向けて繰り返し遊びに取り組んだ [内容(2)(3)(4)]。表 1 に示した「草花の扱い」や前述した体や力の使い方が変化したこと等から、遊びを楽しみながら、自分で考えて物事を達成しようとしたことが読み取れる。その中で幼児は、友達の色水を見て作り方を尋ねると共に、自分が考えた作り方を教えることがあった [内容(5)(6)(7)]。また、店のカウンターの窓枠を友達と一緒に作る姿もあった [内容(8)]。料理やジュースを作る作業台や道具の数は、十分な数が用意されたが、個人のお物は用意されず、共用された [内容(12)]。図 1 に示

すように、片付ける場所や片付け方が分かるように整理して置かれ、共同のものを大切にしながら皆で使うことを、自然に学んだと考えられる。

幼児は、料理やジュースを提供して楽しむことを繰り返す中で、より実物に近い店を作りたいという願望を持った。4歳児学級から見える場所で、5歳児学級も店ごっこをしており、5歳児学級の店には、窓枠が付いていた。4歳児学級の幼児は、窓枠の作成に使えそうな材料を保育室の中で探し、牛乳パックを繋ぐことを思い付く。牛乳パックを繋ぐ方法や繋ぐ長さは意見を出し合って決めた。友達と店ごっこを楽しむ中で、同じようなイメージを持って、4歳児なりの協力をしながら、それぞれの幼児の思いが実現できたと考えられる。

資料2. 領域「人間関係」の「内容」

(1) <u>先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</u>
(2) <u>自分で考え、自分で行動する。</u>
(3) <u>自分でできることは自分です。</u>
(4) <u>いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</u>
(5) <u>友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。</u>
(6) <u>自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</u>
(7) <u>友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</u>
(8) <u>友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。</u>
(9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
(10) 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
(11) 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。
(12) <u>共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。</u>
(13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

(注：下線は、著者らによる。)



図1. 使った道具や容器を元の場所に戻しや 図2. 友達の色水の作り方を観察する幼
すい環境

便宜上、遊びを段階化して論述しているが、実際には様々な段階の遊びが混在していた。段階が違うと、色水の作り方や状態が異なる。図2に示すように、友達が色水を作る様子を観察する姿が見られた。友達が作った色水を見る機会は、降園前の1日を振り返る時間に改めて設けられ、作り方を質問する姿や説明する姿があった。そこで得た情報は、次の日の遊び方に影響を与えた。自分が作るのとは異なる状態の色水や、自分にはなかった発想で色水を作る友達の姿を見ることは、「友達によさ」に気付くことになったと考えられ、幼児の人間

関係の深化を窺い知ることができる。

3 幼児の学びと領域「環境」との関連性

資料3に示すように、「草花を使って遊ぶ」の中の学びは、領域「環境」の「内容」12項目³⁾の内、7項目が該当する。この遊びでは、草花という身近な自然を取り入れ、その色に注目しながら遊ぶことができた[内容(1)(4)]。この遊びは、草花が特に豊富に生える4～6月に行われ、幼児は十分に季節を感じることができたと言える[内容(3)]。また、表1に示した遊びの展開に伴い、草花の性質に対する理解が深まり[内容(2)]、道具の使い方が巧みになった[内容(8)]。草花から色をよく出すためには、水の量の調節が必要である。また、色水をすり鉢から容器に移し替える等、体積の違う容器に水を移す機会が頻繁にある。色水作りを繰り返す中で、水の嵩に対する無自覚な学びがあったと考えられる[内容(9)]。店ごっこが発展すると、幼児は、看板やメニュー表を作るようになったが、生活の中で文字を見た経験を活かし、遊びの中に取り入れたと推察される[内容(10)]。この遊びは、身の回りにある文字に興味関心を持つ機会になったと考えられる。

資料3. 領域「環境」の「内容」

<p>(1) <u>自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</u></p> <p>(2) <u>生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。</u></p> <p>(3) <u>季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</u></p> <p>(4) <u>自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</u></p> <p>(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</p> <p>(6) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。</p> <p>(7) 身近な物を大切に作る。</p> <p>(8) <u>身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</u></p> <p>(9) <u>日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</u></p> <p>(10) <u>日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</u></p> <p>(11) 生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ。</p> <p>(12) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p>
--

(注：下線は、著者らによる。)

草花の性質に対する学びの深化について考察してみよう。「集める」段階では、草花は集めて楽しむ対象である他に、意味は見出されていない。「水に浮かべる」段階では、草花を使って色水を作ることができると気付く。ただし、草花から水に色が出ているという理解にまでは至っていない。「混ぜる・揉む・握る」段階では、自分の働きかけによって、放置するよりも早く色水が作れることに気付く。しかし、この段階では、多量の水を用い、草花に掛ける力が小さかったため、水に出せる色は僅かであった。「押す」段階では、水の量を考えて調節し、草花に強い力を加えた方が水に濃い色が付くと知る。また、手よりも固く、草花を押す面積が小さい道具を使う方が力を加えられることを感覚的に学んだ。草花をよく潰すと濃い色の色水ができることに気付いた幼児は、より濃い色の

色水を作りたいという意欲を持つ。

「押し潰す」段階では、力の入れ方だけではなく、草花を押し付ける面が適度に凸凹している方が、効率よく色を出すことができるということを学ぶ。また、この頃になると、草花から水に出る色は、草花の色と対応していることに気付き、使う草花の色を選んで色水を作り始めた。図3に示すように、色水の色の違いに注目する姿が多く見られるようになる。幼児は、葉や茎を取り除き、1色の花卉だけを使うと、濁りのない色水ができることを学んだ。さらに、色水から花卉を取り除いても、水に色が付いたままであることを知り、花卉が浮いていない色水を作るようになる。「すり潰す」段階では、濁りのない色相が十分に判別できる色水を作るようになっていく。その結果、複数の色を意図的に混ぜる幼児の姿があった。この行動によって、幼児は、異なる色を混ぜると色が変わることや、自分で色を作ることができることを学んだ。ただし、混色に関する学びは、この段階では一部の幼児に該当することであった。



図3. 色水の色を見比べる幼児

4 幼児の学びと領域「言葉」との関連性

資料4に示すように、「草花を使って遊ぶ」の中の学びは、領域「言葉」の「内容」10項目⁴⁾の内、7項目が該当する。「集める」段階では、草花をたくさん集めた喜びを教師に伝える姿があった。また、この遊びは、幼児による新たな事象の発見や、願望を実現させるために幼児が考え、発想を持つ機会が多かった。色水を作る段階になると、草花を浮かべた水に色が付いていることや、色を出す方法に関する発見を教師や他の幼児に伝える姿があった。その中で幼児は、発見や自分の考えを言葉で表現し、教師や友達の言葉を聞いた。聞いて得た情報は、遊び方に反映した[内容(1)(2)]。自分とは違う色水の作り方や状態を見た時は、友達に色水の作り方を尋ね、それに答える幼児の姿があった[内容(1)(2)(3)(4)(5)]。また、店員や客になりきって「いらっしゃいませ」や「ありがとうございます」といった日常では通常使わない言葉を使って遊んだ。作った色水の色を味に見立て、「ブドウジュースです」等の言葉で表し、ジュースが提供された時には、「美味しい」等の言葉を返した。以上のことから、体験を通じてイメージや言葉を豊かにしていったことが窺える[内容(8)]。色水の色をジュースの味に見立てる際、看板やメニュー表が作られたが、これは、教師や友達を店に呼ぶことを目的とし、ジュース屋さんが開店していることやジュースの味を文字で伝えようとした結果である[内容(10)]。

幼児の言葉は、遊びの中で幼児が何に気付き、何を学んでいるのかを象徴する。例えば、色を出す方法について、「混ぜる・揉む・握る」段階では、「マゼマゼする」「ギュッギュッとする」という言葉で表現されたが、幼児の言葉は、

「すり潰す」段階になると「ゴリゴリする」というように変化する。考えたことや感じたことを幼児なりの言葉で表現していたと考えられる。

資料4. 領域「言葉」の「内容」

- | |
|---|
| (1) 先生や友達 <u>の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</u> |
| (2) <u>したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</u> |
| (3) <u>したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</u> |
| (4) <u>人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</u> |
| (5) <u>生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</u> |
| (6) <u>親しみをもって日常の挨拶をする。</u> |
| (7) <u>生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</u> |
| (8) <u>いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</u> |
| (9) <u>絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。</u> |
| (10) <u>日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</u> |

(注：下線は、著者らによる。)

5 幼児の学びと領域「表現」との関連性

資料5に示すように、「草花を使って遊ぶ」の中の学びは、領域「表現」の「内容」8項目⁵⁾の内、7項目が該当する。草花を取り入れて遊んだことで、幼児は草花の形・色・手触りを感じることができた。特に色については、濁った色と濁りのない色の両方を作る経験をした[内容(1)]。また、自分で作った色水の色を味に見立てた[内容(2)]。前述した草花の性質に関する学びからは、身近な自然物の面白さや不思議さを感じる機会が充実していたと言える[内容(1)(2)]。草花によって水に色が付いた時や、自分が作りたい色の色水ができた時は、その発見や喜びを呟いたり、教師や友達に伝えたりする姿が見られた[内容(3)]。これは、心を動かす体験や感動する機会が充実していたと考えられ、それを伝え、受け止められる機会が十分にあったと考えられる。

幼児は、実物のようなジュースを作りたいという願望を持って色水作りに取り組み、濃い色や濁りのない色を作るようになった。感じたことや考えたことが、色水の作り方に反映されたと推察される[内容(4)(7)]。色水作りで、草花への力の加え方や使う草花の選び方が遊びの展開に伴って変化したことからは、草花を素材として工夫しながら遊びに取り入れたことが窺える[内容(5)]。店ごっこでは、牛乳パックをガムテープで繋いで窓枠を作った[内容(5)]。窓枠には、看板やメニュー表が貼られ、遊びの場に必要なものを自分達で考えて作ったことが指摘できる[内容(4)(7)]。また、集めた草花を料理に見立てたり、作った色水をジュースに見立てたりして、客役の教師や友達に提供することを楽しんだ。店員になりきって注文を取ることや、ジュースの味をメニュー表や看板に表現することは、自分のイメージを表現する楽しさを感じる経験になったと考えられる[内容(8)]。

幼児は、「草花を使って遊ぶ」の中で、身近な自然環境に触れて遊びに取り入れた。領域「環境」の「内容の取扱い」では、「幼児期において自然の持つ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、

幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然との関わりを深めることができるよう工夫すること」とある。自然環境に関わることは、表現教育においても重要であることが一般的な認識であり、「草花を使って遊ぶ」は、『幼稚園教育要領』の視点からは、表現力の基盤形成において重要な活動であったと考えられる。

資料5. 領域「表現」の「内容」

(1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

(注：下線は、著者らによる。)

表現は、主に音楽・造形・身体・言語・演劇表現の5項目に分類することができる。資料5より「草花を使って遊ぶ」は、音楽表現以外の表現活動の要素が多く含まれていることが確認でき、特に造形活動との関係性が強いと考えられる。造形物は、主として「形」と「色」の2つの要素によって成り立っているが、この遊びでは、色に関する学びが多くあった。幼児は、遊びの展開に伴って濁った色の色水から濁っていない色の色水を作るようになる。これは、実物のようなジュースを作りたいという願望を持ち、試行錯誤した結果である。濁っていない色は、「美味しそう」と判断され、色相が判別できる色水ができると味を見立てて店ごっこを楽しんだ。濁りのない色を「美味しそう」と表現して好み、色水の色を味に見立てて表現する経験は、感性教育や色彩教育の基盤形成の一助となると考えられる。

この遊びにおける領域「表現」に関する学びで最も重要なのは、生活体験に裏付けられた表現が行われたことである。幼児は、それまで経験したことのあつた「美味しい」という感覚や、「甘い」「辛い」「ブドウの味」等の味覚を色水の色によって表現した。自分の内面を表出することは表現の基本であり、生活体験は、幼児が自覚し表出しやすい。生活体験に裏付けられた表現は、幼児期の発達過程に適合した表現教育だと考えられる。

表現と表出の違いは、相手の存在の有無である。また、自分の表現に対して共感を得ることは、表現に対する新たな意欲に繋がる。幼児期の表現教育において、「共感」は、重要な視点だと考えられる。展開【4】の店ごっこで、幼児は、自分で作ったジュースを教師や友達に提供した。その際、味を伝えたり尋ねたりする姿に平行して、ジュースを飲んで「美味しい」と伝える場面があった。見立てた味を同じようにイメージし、ごっこ遊びを楽しむ過程には、表現

に対する共感があると指摘できる。

表1の「5月第2週以降」の「遊びの展開の契機となる幼児の内面」の欄に、「花卉の色が限られており、作りたい色を作ることができないもどかしさを感じる」という記述があるが、これは、この遊びの最後に見られ始めた姿である。「草花を使って遊ぶ」の活動期間が終わった後は、水遊びの時期になった。水遊びでは、色水遊びの区画が設けられ、混色や色の濃淡を楽しめるような環境構成がされた。「草花を使って遊ぶ」の活動によって得た色の学びは、水遊びの中で継続される。

6 「草花を使って遊ぶ」における学びの特色

「草花を使って遊ぶ」は、草花集めから色水作りに発展した。その発展過程における草花を料理に見立てる遊びから生じた店ごっこは、食べ物屋さんからジュース屋さんに変化した。表1からは、遊びの展開の契機は、幼児の願望・意欲・発想・気付き等であり、学びは、遊びの展開に伴って深化・発展することが確認できる。一連の遊びの中で生じた学びは、保育内容5領域全てに関連付けることが可能であり、調和的で多様であると言える。

また、遊びは、幼児の学びや発見や発想等が相互に影響しながら、展開していた。例えば、幼児は、すりこぎとすり鉢を使って色相が明確に判別できる色水を作るようになったことで、色水の色をジュースの味に見立て、メニュー表を作って遊ぶようになった。つまり、草花の性質の理解や、体や道具の使い方の上達は、ごっこ遊びにおける幼児のイメージを広げ、遊びに文字を取り入れるという行動を引き出したと言える。

遊びを通して教育・学習する幼児教育では、客観的には、幼児の学びが偶発的に生じているように見える。また、前述に纏めたように、遊びの展開や学びの深化・発展に影響する出来事は、総合的で多様であり、読み解くことが困難である。しかし、この教育的現象には、幼児の主体的な活動に寄り添った教師の明確な保育意図と、時宜を得た環境構成及び援助が背景にある。幼児教育における遊びや学びの展開を捕捉するには、遊びの中で生じる幼児の願望や発見等を捉えると共に、活動の展開を支える教師の働きかけを詳細に検討する必要がある。本論で纏めた幼児の多様な学びを引き出した教師の働きかけについては、続報として考察する予定である。

幼稚園4歳児学級における草花を使った遊びの展開に見る幼児の多様な学び

表1. 「草花を使って遊ぶ」の遊びの様相 (2018年4月下旬～6月上旬)

遊びの展開	主な幼児の姿	草花の扱い	遊びの展開の契機となる幼児の内面	学びに繋がる行動	環境構成
4月第3週					
【1】花を草花を集める	○新しい環境を探索する。庭園を歩く。	集める	○草花を立上げて見よう。	①草花を使って遊ぶ。	○豊富な草花 ○ビニール袋
【2】草花を使った料理を作る	○草花を料理に使う。料理の役割を客に見せる。店員さんになる。	料理立て	○自分や友達と分けたい。	①草花を使って遊ぶ。 ②店員や客になりきってやり取りを楽しむ。 ③使った道具を元の場所に戻す。	○皿・スプーン・フォーク ○机・椅子 ※食器類は、ワゴンに種類別に整理して置かれ、片付けやすい。
【3】料理に色を添える	○コップに入れてみる。水に浮かべよう。	水に浮かべる	○草花の色を水につけてみる。	①草花を使って遊ぶ。 ②店員と客になりきってやり取りを楽しむ。 ③使った道具を元の場所に戻す。 ④繰り返し試す。 ⑤発見や発想を教師や友達に伝える。 ⑥友達の見聞を聞き、友達の遊び方を見る。	○コップ ※年長児が草花遊戯を使っている様子が見える。
5月第1週					
【4】草花を使ったジュースを作る	○エプロンをつけて、店員さんになる。水の中に入れてみる。水と混ぜよう。	[1]混ぜる 混ぜる	○草花の水を混ぜよう。	①草花を使って遊ぶ。 ②店員と客になりきってやり取りを楽しむ。 ③使った道具を元の場所に戻す。 ④繰り返し試す。 ⑤発見や発想を教師や友達に伝える。 ⑥友達の見聞を聞き、友達の遊び方を見る。 ⑦友達に色水の作り方を尋ねる。 ⑧適切な水の量を考えて色水を作る。 ⑨作り終わった色水を捨て、容器を濯ぐ。 ⑩水に色を付けたいという願望を実現する。 ⑪草花を浮かべるより、混ぜる・揉む・握り出す方が、水に色が付くということに気付く。	○作業台 ○エプロン ○透明な容器 ○お玉 ○計量スプーン ○水槽 ○使った容器を張った水盥(タライ) ○作り終わった色水を捨てるバケツ ○色水を並べる箱
	○コップの中に入れてみる。水の中に入れてみる。水と混ぜよう。	[2]道具を使って	○草花の色がくっきり付く。	①草花を使って遊ぶ。 ②店員と客になりきってやり取りを楽しむ。 ③使った道具を元の場所に戻す。 ④繰り返し試す。 ⑤発見や発想を教師や友達に伝える。 ⑥友達の見聞を聞き、友達の遊び方を見る。 ⑦友達に色水の作り方を尋ねる。 ⑧適切な水の量を考えて色水を作る。 ⑨作り終わった色水を捨て、容器を濯ぐ。 ⑩濃い色の色水を作りたいという願望を実現する。 ⑪草花を道具で押した方が、水に色が付くと気付く。 ⑫色水から草花を取り除いても、水に色は付いたままだと気付く。	※皿の数が徐々に減り、底の深い容器が増え、草花が作業台の上で置かれる。 ※色水を並べる箱が白く、色水が色よく分かれる。
	○色水をおでんや煮物に使う。	[3]道具を使って	○「押し込み」が、草花の色が濃くなる。	①草花を使って遊ぶ。 ②店員と客になりきってやり取りを楽しむ。 ③使った道具を元の場所に戻す。 ④繰り返し試す。 ⑤発見や発想を教師や友達に伝える。 ⑥友達の見聞を聞き、友達の遊び方を見る。 ⑦友達に色水の作り方を尋ねる。 ⑧適切な水の量を考えて色水を作る。 ⑨作り終わった色水を捨て、容器を濯ぐ。 ⑩実物のジュースを作りたいという願望を実現する。 ⑪草花を押し込んだ方が草花から色が出る。 ⑫花弁と色を一緒に牛乳パックで搾る。	○すりこぎ ○笊(ザル) ○牛乳パック ※花弁が色ごとに分けて置かれる。 ※草花を使った遊びの場から年長児の店が見える。 ※工芸コーナーに材料がある。

5月第2週以降			
<p>【4】草花の色を作る。ジュースを作る。</p>	<p>○「すり鉢」を使う。ジュースを作る。</p>	<p>○「すり鉢」を使う。ジュースを作る。</p>	<p>①草花を使って遊ぶ。 ②店員と客になりきってやり取りを楽しむ。 ③「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ④「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑤「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑥「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑦「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑧「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑨「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑩「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑪「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑫「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑬「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑭「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑮「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑯「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑰「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑱「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑲「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ⑳「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ㉑「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ㉒「すり鉢」を使う。ジュースを作る。 ㉓「すり鉢」を使う。ジュースを作る。</p>

参考・引用文献

- (1) 文部科学省, 『幼稚園教育要領』, フレーベル館, 14-15 頁, 2017 年.
- (2) 前掲書(1), 16 頁.
- (3) 前掲書(1), 18 頁.
- (4) 前掲書(1), 19-20 頁.
- (5) 前掲書(1), 21 頁.

Diverse Learning of Children that Can Be Observed during Developing Play with Flowers in the Class of Kindergarten for Four-year-old Children

YOKOTA Saki *¹, NISHIMURA (NAKAGAWA) Kana *², TAKAHASHI Toshiyuki *³

The purpose of this paper is to clarify the development of play in early childhood education. The learning in childhood is diverse and comprehensive therefore it was difficult to capture the complete picture and it has been empirically understood. Accordingly, we considered play with flowers in the class of kindergarten for four-year-old children. As their play was developed, the learning was deepened, developed, and related to five fields of childcare contents. In addition, the background of learning in childhood that seemed incidental involved effective approaches by teachers.

Keywords : diverse learning of children, development of play, the class of kindergarten for four-year-old children, play with flowers

*1 Social welfare corporation Tachibanakai Minan Manmaru childcare center

*2 Former The Kindergarten Attached to the Faculty of Education, Okayama University

*3 Faculty of Education, Okayama University
